

令和4年度 家庭の教育力に関する調査結果

～令和5年3月実施～

・・・7項目についての意識と実態・・・

市内の保育園・幼稚園・認定こども園に在席する年長児の保護者・園の担当者を対象に、右の7項目について、

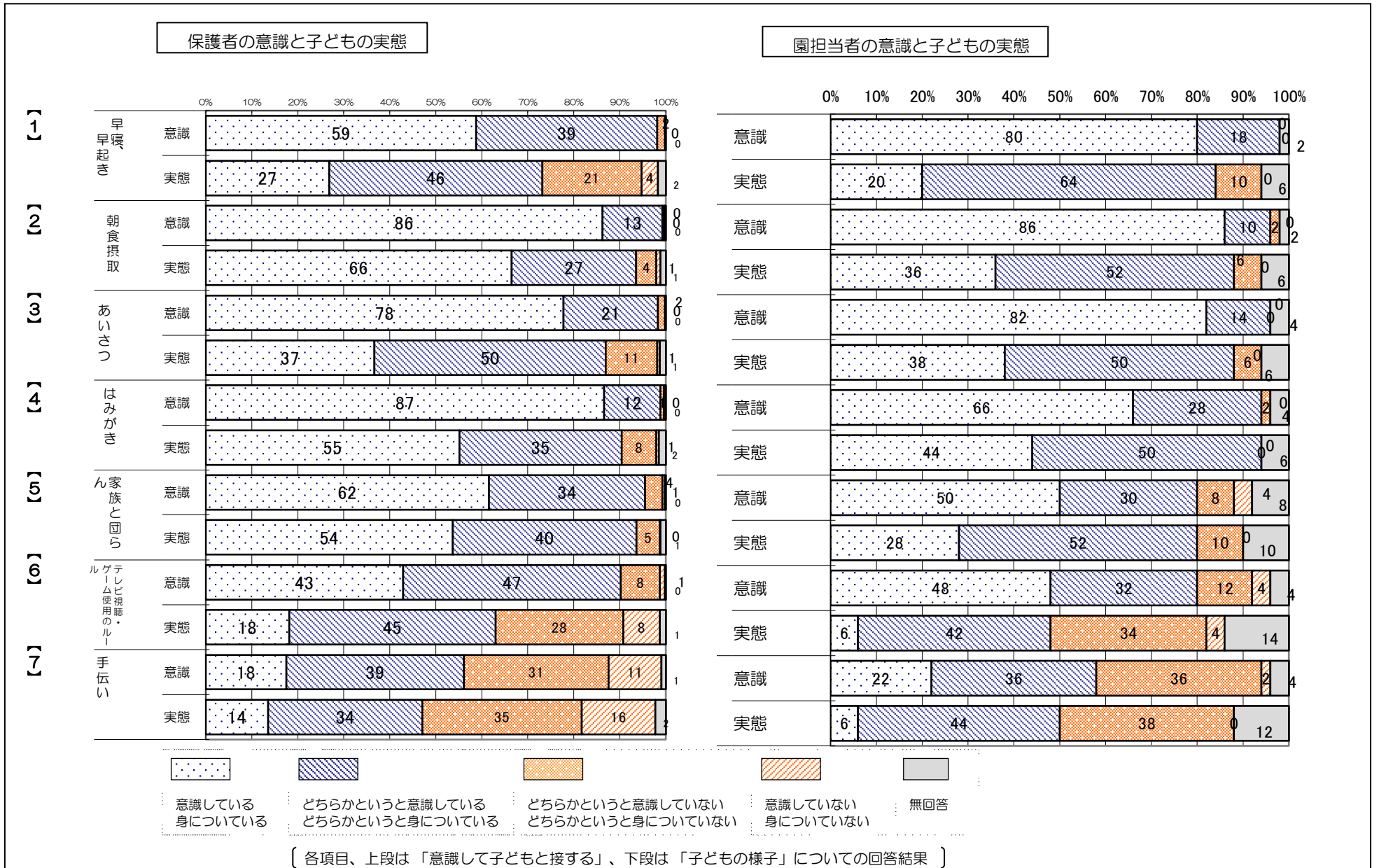
- ① 意識して子どもと接しているか
 - ② 子どもの様子はどうなっているか
- という設問で、アンケート調査を実施しました。

45園、約83%の保護者から回答が届き、以下のような結果となりました。

新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の感染症が流行している状況の中でしたが、アンケートにご協力をいただきました。

<調査項目>

- 【1】 早寝、早起きをする
- 【2】 朝食をしっかり食べる
- 【3】 あいさつをする
- 【4】 歯磨きをする
- 【5】 家族と団らんする
- 【6】 テレビ視聴・ゲーム使用のルールを決めて守る
- 【7】 手伝いを決めて毎日行う



・ 回答結果から ・

- ・ 「どちらかという身につけている」まで含めて7項目を平均すると、78.1%の保護者、76.0%の担当者が、子どもに身につけていると捉えている。（保担合わせた平均は、77.05%）
- ・ 基本的な生活習慣の定着状況に絞り、【1】【2】【3】【6】の4項目を平均すると78.9%の保護者、77.0%の担当者が、子どもに身につけていると捉えている。（保担合わせた平均は、77.95%）
- ・ 子どもの実態の捉えでは、「どちらかという身につけている」まで含めると、保護者と担当者では同じ傾向にある。早寝・早起きに関しては、保護者よりも担当者のほうが肯定的に捉えている。
- ・ テレビ視聴・ゲーム使用のルールは、意識して取り組んでいる保護者が増えて、身につけていると肯定的に捉える保護者が増えてきている。しかし、園の担当者は、子どもの実態に課題があると捉えている割合が高い。
- ・ 「手伝い」について、他の項目と比べ大人の働きかけが弱く、実態も子どもに身につけていないと捉えられている。
- ・ 保護者から見た子どもの実態における肯定的回答（「身につけている」）での比較では、団らんが93.8%、朝食摂取が93.0%と高く、次いで、歯磨き、あいさつとなっている。
- ・ 早寝・早起きの項目では、ほとんどの保護者が意識してかかわっている、約1/4の保護者が身につけていないと捉え、思うようにならない中でも力を入れて取り組んでいる実態がある。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策で、園の様子を見に行ったり先生方と話したりする機会が少なかったと思うが、個別面談や密を避けながらの保育参観などできることを工夫しながら行うようにした。
- ・ ニコニコせせい体験について、新型コロナウイルス感染症が落ち着いたら復活を希望する保護者の声もあるので、ぜひ取り組みたいと考えている。

・ 今後の課題 ・

- ★ 「家族でニコニコチャレンジ」は継続し、家族での取り組みを促しながら基本的な生活習慣の定着を図っていく。
- ★ 望ましい幼児期の基本的な生活習慣が身につくように、園と家庭が連携しながら取り組めるような情報発信をしていく。
- ★ 手伝いの実施については「自己有用感」「自立心の育成」「親子でのふれ合い」といった観点から重視し、幼児期にふさわしいお手伝いについても発信していく。
- ★ 各園や小学校などの関係機関と連携を深めながら、家庭の教育力向上への取組を継続していく。
- ★ デジタル機器の使用等については、デジタル機器の利用・活用が重要視されている社会であることを踏まえつつ、幼児期は使いこなすのではなく、使用ルールを家族で決め、守ることの大切さを発信していく。（具体的なルールは家族の実態に合わせ、話し合って決めることを促す。）
- ★ 「ニコニコガイド」等活用し、幼児期に特に大切に育みたい力について周知を図る。